

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-13243

(43)公開日 平成7年(1995)1月17日

(51)Int.Cl.⁶
G 0 3 B 17/02

識別記号
7513-2K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全5頁)

(21)出願番号 特願平5-158806

(22)出願日 平成5年(1993)6月29日

(71)出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 玉村秀雄

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

(74)代理人 弁理士 本多 小平 (外3名)

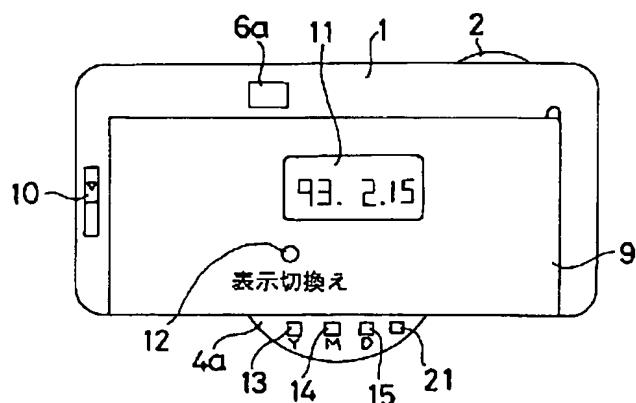
(54)【発明の名称】 カメラ

(57)【要約】

【目的】 最近のコンパクトカメラは非常に小型化されているが、カメラ表面が操作ボタンだけになっているため、撮影時にカメラをホールドした時に誤って操作ボタンを押してしまう、という事故が生じやすくなっている。本発明の目的は、そのような事故の起りにくいカメラを提供することである。

【構成】 本発明のカメラでは、カメラ外側へ突出するバリア4を有し、該バリア4の裏面にデータ表示修正ボタン13~15及び巻戻しボタン21などを配置したことにより、カメラ本体1の表面の操作ボタン類の配置密度を低減させ、カメラをホールドした時に誤って該ボタン類を押してしまうことがないようにした。

図1



【特許請求の範囲】

【請求項1】撮影レンズの前面を覆う撮影レンズ遮蔽位置と該撮影レンズの前面から退避する退避位置とに移動するパリアを有し、該パリアは該退避位置ないし該退避位置に近い位置でカメラの外側へ突出するようになっており、該パリアの裏面には該パリアがカメラの外側へ突出した位置において露出する操作部材が設けられていることを特徴とするカメラ。

【請求項2】該パリアは昇降式パリアであることを特徴とする請求項1のカメラ。

【請求項3】該パリアは該撮影レンズの光軸に平行な軸線を中心として回動する回動式パリアであることを特徴とする請求項1のカメラ。

【請求項4】該パリアがカメラの外側へ突出した時には該カメラを支える脚としての機能を果すものであることを特徴とする請求項1のカメラ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はカメラに関し、特にレンズパリア機構を有するカメラに関する。

【0002】

【従来の技術】最近のレンズ非交換型カメラ（すなわちコンパクトカメラ）は非常に小型化しておりまた、電子制御技術により非常に多機能化されている。そのため、該カメラの表面には多数の操作ボタンが配置されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前述した従来のカメラでは、カメラが小型化されているためカメラ表面には該ボタンが密集した状態となっており、従って、撮影時に該カメラを手でホールドすると、該ボタンを誤って押してしまうという事態が発生しやすくなっている。このような事態の発生を防止するために、従来のカメラには、該ボタン類の配置されている場所をカバーで覆うという構造のものもあるが、該ボタン類をカバーで覆っても該ボタン類の密集度は変わらないので操作性は改善されなかつた。

【0004】本発明の目的は、前記した従来のカメラの欠点を排除したカメラを提供することであり、具体的には、該ボタン類の密集度が従来のカメラよりも少なくて操作性のよいカメラを提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】カメラを大型化せずに該ボタン類の密集度を減らすために、本発明ではパリアの裏面を利用して該ボタン類の一部を配置することにした。このような構成によれば、操作ボタン類の密集度を減らすことができるとともにカメラの大型化を防止でき、操作性のよいカメラを実現できる。

【0006】

【実施例】以下に図面を参照しつゝ本発明の実施例につ

いて説明する。

【0007】<実施例1>図1乃至図5を参照して本発明の実施例を説明する。

【0008】図1～図4において、1はカメラ本体、2はレリーズボタン、3はストロボ光投光窓、4は軸5を中心として回動するパリア、6はファインダー対物窓、6aはファインダー接眼窓、7aは測距用投光窓、7bは測距用受光窓、8は撮影レンズ、9はカメラの背蓋、10は背蓋係止操作部材、11は日付け（データ）表示盤、12は表示切換えボタン、である。表示切換えボタン12を押すと、日付け表示盤11における表示は、「年、月、日」→[OFF]→「月、日、年」→「日、月、年」→「年、月、日」のように表示が切換わる。

【0009】13、14、15はパリア4の裏面4aに設けられた表示修正ボタン、21もパリア4の裏面に設けられたフィルム巻き戻しボタン、である。表示修正ボタン13を押すと、日付け表示盤11上の年号表示が変更され、表示修正ボタン14を押すと日付け表示盤11上の月表示が変更され、表示修正ボタン15を押すと日付け表示盤11上の日表示変更がされる。

【0010】該カメラの非撮影時にはパリア4は図3の位置に係止されていて、撮影レンズ8、ファインダー対物窓6、測距用窓7a及び7bが該パリア4により図3のように覆われている。

【0011】撮影を行なう準備をするために該パリア4の係止が外されると、パリア4は軸5を中心として図3の位置から時計方向に回動され、図2に示す状態となる。この時、パリア4の裏面にあるボタン類13～15及び21がカメラの背面側へ向いて図1のように露出するのでカメラ使用者は該ボタン類13～15及び21を操作することができる。図1の状態で表示修正ボタン13～15を押して日付け表示盤11上のデータ数時を設定してからパリア4を更に時計方向に回動させてパリア4が図4に示す位置になった時にパリア4は再び係止され、この状態において撮影レンズ8が完全に露出するので撮影が可能となる。なお、図1及び図2のように、パリア4がカメラの下側に突出した状態になった時にはパリア4がカメラを傾斜状態に立たせるための脚となるようにパリア4を係止する不図示のクリック機構が設けられている。

【0012】図5はパリア部分の断面図である。図5において、16はパリア4の地板、20はパリア4の外装板、17及び18はプリント配線板、13は前記の表示修正ボタン、5は前記したパリア4の回転中心となる回転軸、19はプリント配線板17及び18に接続されたリード線、8は撮影用レンズ、である。同図に示されるように、回転軸5は中空の円筒体となっており、該回転軸5内をリード線19が挿通されているので回転軸5が回転してもリード線がねじられてしまう恐れはない。

【0013】<実施例2>図6～図8を参照して本発明



の第二実施例について説明する。なお、第一実施例で説明したカメラの構成要素と同じ構成要素については第一実施例と同じ符号で表示し、この同じ構成要素については説明を省略する。

【0014】本実施例のカメラ1Aは第一実施例のカメラとは異なるバリア22を有している。このバリア22は扇形の半部を切り欠いたような形状をしており、撮影レンズ8の下方にある回転軸23を中心として回動しうるようになっている。尚、この回転軸23も第一実施例のものと同じ中空軸であり、内部にリード線が挿入され、該回転軸23はバリア22の地板に固着されている。バリア22の裏面の外周縁部には曲げ部もしくは突片があり、該曲げ部もしくは突片はカメラ本体1Aの前面板の内壁に形成された円弧溝1aに相対摺動可能に係合している。バリア22の一方の側面部には撮影レンズ8の円周に沿って湾曲した突部22aが形成されており、該突部22aは図8に示されるようにバリア22がカメラの外側へ突出した状態となった時にはカメラを支える脚となる。

【0015】カメラ本体1Aの下縁部にはバリア22の回動を所定の位置で阻止するロック摘み24が設けられており、該ロック摘み24は水平方向に移動可能であるとともにバリア22の先端部の回動経路に進入しうるようになっている。該ロック摘み24はクリック機構を有し、所定の位置で固定できるようになっている。

【0016】本実施例のバリア22の裏面にも前述の第一実施例と同じように表示修正ボタン13～15が（図9参照）設けられており、これらのボタン13～15はバリア22が図8のようにカメラ外側（下側）へ突出した時に図9のようにカメラ背面側に向いて露出するようになっている。

【0017】非撮影時にはバリア22は図6の位置に不図示の係止機構により係止されており、撮影レンズ8は該バリア22で遮蔽されている。撮影を行なうために不図示の操作部材を操作するとバリア22の係止が外され、バリア22は軸23を中心として図6の位置から時計方向に回転し、該バリアの回動経路内に突出しているロック摘み24に衝突して停止する。そして、この時に撮影レンズ8の前面から該バリア22が退避するので撮影が可能となる。なお、撮影開始前に日付け表示盤11の日付け表示を変更する必要のある時には、ロック摘み24を図7の位置から右へ指で動かすとバリア22に対する係止が外されるため、バリア22は図7の位置から更に時計方向へ回転して図8の状態となり、この時にバリア裏面の表示修正ボタン13～15が露出するので該ボタンを操作することができる。

【0018】<実施例3>図10～図13を参照して本発明の第三の実施例を説明する。なお、第一及び第二の実施例において説明したカメラ構成要素と同じ構成要素については第一及び第二の実施例と同じ符号で表示する

とともに説明を省略する。

【0019】図10～図13に示される本実施例のカメラ1Bは、前面の中央部にカメラの上から下までに延在する突出部1bを有し、該突出部1bに嵌合して昇降移動するバリア25が設けられている。バリア25にはカメラ1Bの撮影レンズ8を露出させるための穴25aが貫設されるとともにバリア25の一方の側面にはカメラ前面に設けられたロック摘み24に係合する切欠き部25cが形成されている。また、バリア25の下縁部には下方向に突出する突部25bが形成されている。また、バリア25の裏面の下縁部近傍位置には図11に示すように、日付け表示盤11の表示を変更するための表示修正ボタン13～15が設けられている。

【0020】図10は該カメラ1Bの非撮影時の状態を示した図であり、カメラ1Bの撮影レンズ8はバリア25により完全に遮蔽されており、バリア25はカメラ1Bの最も高い位置にあり、バリア25の側面の切欠き部25cはロック摘み24より高い位置にある。

【0021】図11はバリア25が図10の位置から下降し、バリア25の穴25aがカメラ1Bの撮影レンズ8に一致して該レンズ8が露出された状態を示す。すなわち該カメラ1Bが撮影状態にセットされた状態である。この時にはバリア25の側面の切欠き部25cがカメラ1Bのロック摘み24に係合してバリア25が該摘み24により係止され、バリア25のレンズ用穴25aがカメラの撮影レンズ8に一致する。そして、ファインダー対物窓6と測距用窓7a及び7bが露出される。

【0022】図11の状態においてロック摘み24を左側へ指で移動させると、該摘み24とバリア25の切欠き部25cとの係合がなくなるためバリア25は図11の位置から更に下方へ移動可能となり、最終的には図12に示す位置で停止する。この状態ではカメラ1Bの撮影レンズ8はバリア25の影に隠れているので撮影は不可能であるが、測距用窓7a及び7bは露出し、ファインダー対物窓6も露出しているので、撮影準備は可能な状態である。そして、バリア25の下端部近傍は図13に示すようにカメラ1Bの下側に突出するので、バリア25の裏面に設けられている表示修正ボタン13～15がカメラの背面方向に向いて露出し、従って該ボタン13～15を操作することができるようになる。

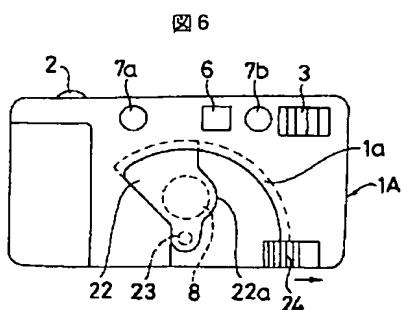
【0023】なお、バリア25の昇降動作の駆動力にはね力やモータの駆動力を利用できることは当然である。また、バリア25が図10～図12の各位置で不図示の機構によりロックされるようになっているのも当然である。

【0024】

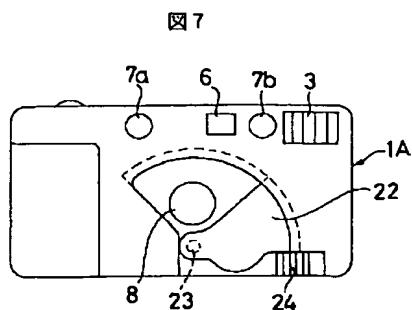
【発明の効果】以上に説明したように、本発明のカメラでは、カメラの外側へバリアが突出した時に露出する操作ボタンを該バリアの裏面に設けたので、カメラの全表面に対する操作ボタン類の配置密度を低減させることができ



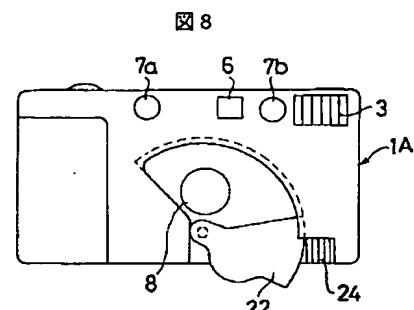
【図6】



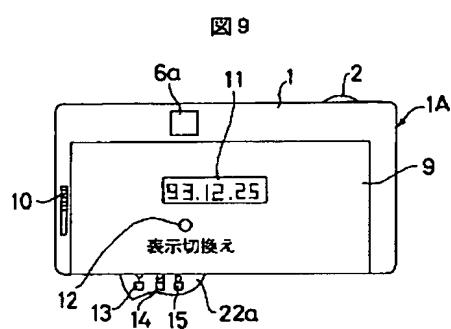
【図7】



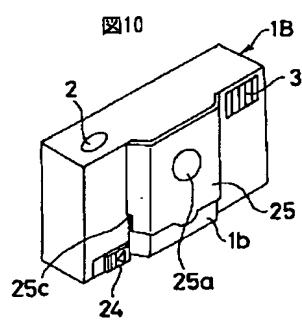
【図8】



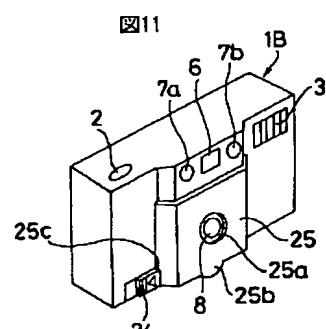
【図9】



【図10】



【図11】



【図13】

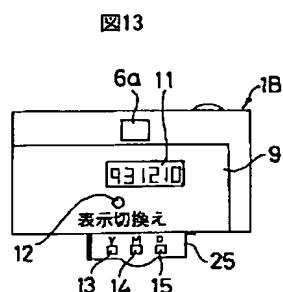


図13

